（別紙）

水稲の出穂状況（８月１２日現在概況速報）について

１　８月１２日現在、出穂した水田の割合は県全体で９１％（前年同期９２％）である。
地帯別では、北上川上流が８９％、北上川下流が９３％、東部９１％、北部７９％である。

２　県全体の出穂盛期（50%出穂）は８月７日、出穂終期（90%出穂）は８月１１日と推定され、各々平年並で経過した。

表１　水稲の地帯別出穂状況（8 月 12 日現在，各農業改良普及センター調べ）

農業地帯	8/12現在出穂割合(%)					出穂時期（月／日）								
						本年			平年			平年差（日）		
	本年	H23	H22	H21	H20	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	89	88	100	91	99	8/5	8/8	8/12	8/3	8/7	8/11	2	1	1
北上川下流	93	93	100	92	99	8/3	8/7	(8/11)	8/4	8/7	8/11	−1	0	0
東　部	91	95	100	72	78	8/5	8/7	8/13	8/5	8/9	8/13	0	−2	0
北　部	79	94	100	77	80	8/7	(8/9)	(8/13)	8/4	8/7	8/12	3	2	1
県 全 体	91	92	100	90	99	8/4	(8/7)	(8/11)	8/4	8/7	8/11	0	0	0

注）1，平年値は、平成 14 年～23 年の 10 カ年の平均値.
2，出穂状況は、始期：10%終了、盛期：50%終了、終期：90%終了、を表している.
3，括弧書きの数値は未確定市町村があるため推定値.

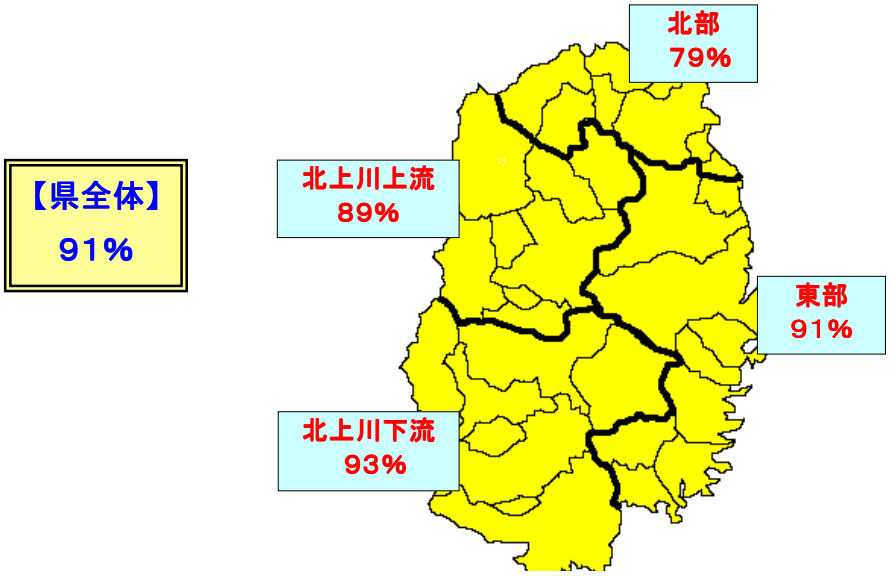

図１　水稲の地帯別出穂割合（8 月 12 日現在，各農業改良普及センター調べ）

３　栽培管理のポイント

（１）開花終了後は間断かんがいを基本とし、水の入れ替えを積極的に行い地温の低下を図る。用水に余裕のある地域では掛け流しも有効である。

（２）早期の落水は品質低下の原因となるので避ける。

（３）水田内のヒエ類が多いほど斑点米率が高い傾向がある。本年は、斑点米カメムシ類の発生を助長する本田内の雑草発生が平年よりも多い（8 月 3 日病害虫防除所発表）。現在、水田内雑草が発生しているほ場では斑点米被害の多発が懸念されるので、穂揃い１ 週間後および穂揃い２週間後の２回防除を実施すること。

（４）コンバインや乾燥調整施設の清掃、整備を早めに行い、適期収穫できるよう準備しておくこと。